

整備事業

I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(広島県 令和 2 年度)

| 市町村名   | 事業実施主体名<br>(対象作物・畜種等名)①       | メニユー①<br>類別 | 成果目標の具体的な内容①             | 事業実施後の状況①   |   |   |  |  |  |  |                            | メニユー②<br>(対象作物・畜種等名)②      | 類別                 | 成果目標の具体的な内容②           | 事業実施後の状況②              |                        |                        |                        |                       |                       |                       |                               | 成果目標の具体的な実績②   | 事業内容<br>(工種、施設区分、構造、規格、能力等)   | 事業費<br>(円)    | 負担区分 (円)    |       |               |             | 完了年月日  | 事業実施主体の評価  | 都道府県の評価<br>備考   |
|--------|-------------------------------|-------------|--------------------------|---|---|---|--|--|--|--|----------------------------|----------------------------|--------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------------|--|---|---------------|-------------|-------|---------------|-------------|--|--|---|
|        |                               |             |                          | 計画時   | 1年後   | 2年後   | 3年後  | 4年後  | 5年後  | 目標値  | 達成率                        |                            |                    |                        | 計画時                    | 1年後                    | 2年後                    | 3年後                    | 4年後                   | 5年後                   | 目標値                   | 達成率                           |  |   |               | 交付金         | 都道府県費 | 市町村費          | その他         |  |  |   |
|        |                               |             |                          |   |   |   |  |  |  |  |                            |                            |                    |                        |                        |                        |                        |                        |                       |                       |                       |                               |  |   |               |             |       |               |             |  |  |   |
| 世羅町    | 広島たまご株式会社<br>畜産生産基盤育成強化(採卵鶏)  | 182         | 採卵鶏飼養における飼料要求率が1.69%以上向上 | 2.0377<br>(飼料量 6,708,576kg/産卵量 3,292,242kg)<br>(平成26年)            | 2.2178<br>(飼料量 10,860,040kg/産卵量 4,896,810kg)<br>(平成28年)           | 2.1105<br>(飼料量 16,937,656kg/産卵量 8,025,407kg)<br>(平成29年)           | 2.2441<br>(飼料量 16,769,667kg/産卵量 7,472,934kg)<br>(平成30年)          | 2.1469<br>(飼料量 16,952,538kg/産卵量 7,896,119kg)<br>(令和元年)           | 2.0911<br>(飼料量 16,837,569kg/産卵量 8,051,838kg)<br>(令和2年)           | 2.0033<br>(飼料量 16,196,429kg/産卵量 8,084,878kg)<br>(令和2年) | -155.2%                    | 計画時(H26年)と比較して飼料要求率が2.6%増加 | 183                | 受益農家の生産額を149%以上増加      | 538,154千円<br>(平成26年)   | 805,216千円<br>(平成28年)   | 1,341,743千円<br>(平成29年) | 1,171,443千円<br>(平成30年) | 1,164,361千円<br>(令和元年) | 1,138,991千円<br>(令和2年) | 1,339,187千円<br>(令和2年) | 75.0%                         | 計画時(H26年)と比較して受益農家の生産額が111.6%増加  | 家畜飼養管理施設建築物<br>ウインドレス鶏舎(鉄骨)<br>3棟 3,445.413㎡<br>集卵舎(鉄骨)<br>1棟 315㎡<br>堆肥舎(鉄骨)<br>1棟 1,194.29㎡<br>電機設備一式<br>内部機械一式 | 723,924,000   | 331,527,000 | 0     | 0             | 392,397,000 | H29.3.17   | 広島たまご株式会社採卵鶏部門は、三次農場、つばき農場、つばき第2農場で構成されている。本事業では、つばき第2農場で施設の整備を行った。<br>目標の達成に向けて、三次農場において、令和元年度に大腸菌症が発生し、産卵率が低下、へい死率が増加したため、鶏舎内機風の強化及び生菌剤の投与を行い、大腸菌症の発生を防止し、産卵率、へい死率を改善させることができた。また、つばき農場においては、令和元年度に適正な強制換羽ができなかったことにより産卵率が低下したため、強制換羽の方法を見直したことから、部門全体の産卵量は目標値の99.6%となった。しかし、三次農場及びつばき農場では赤痢(ボリスプラウン)を飼育しており、赤痢の1個当たりの卵数が低位傾向にあること及び農場全体で強制換羽後と冬場に過剰な飼料量となったことから、飼料要求率は目標を達成できなかった。<br>今後は、ボリスプラウンの育種改良の動向を注視し、必要に応じて導入鶏種の変更を行い卵重の回復を図るとともに、強制換羽後の給餌制限及び鶏舎内の温度や換気装置の管理を徹底するなど冬場の寒冷対策を強化し、飼料量を削減することによって飼料要求率の改善を図り、目標達成をめざす。<br>生産額についても、産卵量は概ね目標達成したものの、鶏卵需給の変動による鶏卵相場低迷を受け、目標を達成できなかった。なお、令和3年度は卵価が回復傾向にあるため、目標を達成できる見込みである。 | 飼料要求率及び生産額共に目標を達成していない。<br>今後は、強制換羽後の給餌制限及び冬場の寒冷対策の徹底によって飼料要求率の改善を図ることとしており、引き続き、関係機関と連携し目標達成に向けた指導を行う。 |
| 庄原市東城町 | 株式会社東城ポトリー<br>畜産生産基盤育成強化(採卵鶏) | 181         | 採卵鶏100羽当たり労働時間が27.7%以上削減 | 5.16時間/100羽<br>(年間総労働時間61,444時間/常時飼養羽数 1,191,007羽×100)<br>(平成27年) | 5.96時間/100羽<br>(年間総労働時間67,500時間/常時飼養羽数 1,132,895羽×100)<br>(平成29年) | 6.09時間/100羽<br>(年間総労働時間64,786時間/常時飼養羽数 1,064,428羽×100)<br>(平成30年) | 4.67時間/100羽<br>(年間総労働時間64,302時間/常時飼養羽数 1,377,629羽×100)<br>(令和元年) | 3.90時間/100羽<br>(年間総労働時間63,633時間/常時飼養羽数 1,630,203羽×100)<br>(令和2年) | 3.73時間/100羽<br>(年間総労働時間66,183時間/常時飼養羽数 1,775,880羽×100)<br>(令和2年) | -  | 計画時(H27年)と比較して労働時間が24.4%削減 | 183                        | 受益農家の生産額を27.7%以上増加 | 4,408,008千円<br>(平成27年) | 3,990,402千円<br>(平成29年) | 3,592,967千円<br>(平成30年) | 3,613,267千円<br>(令和元年)  | 4,149,849千円<br>(令和2年)  | -                     | 5,627,444千円<br>(令和2年) | -21.2%                | 計画時(H27年)と比較して受益農家の生産額が5.9%減少 | 家畜飼養管理施設建築物<br>ウインドレス鶏舎(鉄骨造 4m超)<br>3棟 (6,860,12㎡)<br>2棟 (5,501,97㎡)<br>機械設備一式<br>電機設備一式<br>家畜排せつ物処理施設<br>鉄骨造(4m超)<br>1棟 (2,983,23㎡)<br>機械設備一式 | 3,366,867,368   | 1,114,522,000 | 0           | 0     | 2,252,345,368 | R1.8.10     | 株式会社東城ポトリー東城農場は第1農場及び第2農場からなる。第1農場において、本事業を活用してウインドレス鶏舎を5棟整備し、鶏舎利用率は96.2%となり、規模拡大を図った。一方、第2農場においては、暑熱対策のため、一ヶ所当たりの飼養羽数を6羽から5羽にしたことにより、鶏舎利用率が86.6%、農場全体において、鶏舎利用率91.8%となり、作業効率も上がらなかったことから、労働時間の削減目標をわずかに達成できなかった。<br>暑熱対策のため、一ヶ所当たりの飼養羽数を5羽から6羽にするなど、暑熱対策を強化し、一ヶ所当たりの飼養羽数を5羽から6羽にするなど、暑熱対策を強化することによって、労働時間の削減及び生産額の増加を図ることとしており、引き続き、関係機関と連携し、目標達成に向けた指導を行う。 | 労働時間及び生産額共に目標を達成していない。<br>また、目標の根拠値である「常時飼養羽数」も目標値に達しなかった。<br>今後は、暑熱対策を強化し、一ヶ所当たりの飼養羽数を5羽から6羽にするなど、暑熱対策を強化することによって、労働時間の削減及び生産額の増加を図ることとしており、引き続き、関係機関と連携し、目標達成に向けた指導を行う。  |   |

|           |       |      |   |
|-----------|-------|------|---|
| 都道府県平均達成率 | 40.7% | 総合所見 | 県平均達成率は未達成となった。<br>未達となった主な要因として、強制換羽後の飼料量過多や不十分な暑熱対策を補うための一ヶ所当たりの飼養羽数の低減が考えられる。<br>今後は、適切な飼養管理の徹底による目標達成に向けて、関係機関と連携して指導を行う。 |
|-----------|-------|------|---|

(注) 1 別紙様式1号の2の1に準じて作成すること。  
2 要綱第3の4の(2)のアのただし書きの場合にあっては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。  
3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。  
4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。  
5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。  
6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。

都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

（広島県 令和2年度）

| 市町村名 | 事業実施主体名      | 対象作物・畜種等名又は卸売市場名 | 成果目標の具体的な内容              | 事業実施後の状況            |                      |                     |     |                      | 成果目標の具体的な実績 | 事業内容<br>(工種、施設区分、構造、規格、能力等) | 事業費<br>(円)   | 負担区分(円)       |             |       |      | 完了年月日       | 事業実施主体の評価     | 都道府県の評価  | 備考   |     |
|------|--------------|------------------|--------------------------|---------------------|----------------------|---------------------|-----|----------------------|-------------|-----------------------------|--|---------------|-------------|-------|------|-------------|---------------|--|--|-----|
|      |              |                  |                          | 計画時<br>(平成29年度)     | 1年後<br>(令和元年度)       | 2年後<br>(令和2年度)      | 3年後 | 目標値<br>(令和2年)        |             |                             |  | 達成率           | 交付金         | 都道府県費 | 市町村費 |             |               |  |  | その他 |
| 三原市  | 株式会社ヒロシマ・コープ | 果樹(かんきつ類、落葉果樹)   | 被災前に比べて農畜産物生産額を19.8%以上増加 | 生産額<br>89,475<br>千円 | 生産額<br>154,058<br>千円 | 生産額<br>76,693<br>千円 | —   | 生産額<br>107,190<br>千円 | -72.1%      | 被災前に比べて生産額は14.3%減少した。       | ・農産物処理加工施設<br>搾汁設備一式<br>充填設備一式<br>附帯施設一式<br><br>解体・撤去・廃棄費用 | 1,065,818,102 | 493,434,306 | 0     | 0    | 572,383,796 | 令和元年<br>6月28日 | 目標年度であるR2年度は、みかんが隔年結果の裏年にあたり、生産量が前年比76%と大きく減少し、また、レモンも寒波の影響により生産量が大きく減少したことから目標値に対して未達となった。<br>しかし、本事業実施により県内産地の加工原料の受け入れが可能となり、特にレモンは大手ブランドメーカーにも継続して加工製品を提供できたこと、また、果皮の活用が拡大していることなど産地および生産者に対して一定の貢献をすることができた。<br>今後は、売上増に向けて柑橘加工では昨年できなかったみかん加工原料受け入れ価格の値上げを実施し、原料確保を行ったうえで搾汁後の果汁販売と近年、特に需要が大きくなっている加工果皮の拡販に取り組むことにより、目標達成を図る。 | 温州みかんが隔年結果の裏年であることや、レモン等が令和3年1月の寒波の影響により生産量が大きく減少したことから、加工原料用果実が減少し、生産額の目標を下回った。<br>今後は、関係機関と連携しながら、温州みかんの隔年結果は正対策やレモンの防寒対策の徹底等の栽培技術指導を実施することにより、安定生産の実現を図る。 |     |

|           |    |      |   |
|-----------|----|------|---|
| 都道府県平均達成率 | 0% | 総合所見 | 県平均達成率は未達成となった。<br>未達となった要因として、隔年結果の裏年であったことや寒波の影響により、原料用果実が減少したことが考えられる。今後は、目標達成に向けて関係機関と連携しながら、隔年結果は正対策や防寒対策の徹底等の栽培技術指導を行う。 |
|-----------|----|------|---|

- (注) 1 別紙様式1号の1に準じて作成すること。  
 2 要領第7のただし書きの場合には、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。  
 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。  
 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。  
 5 「総合所見」欄については、評価実施年度を取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。  
 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。

整備事業

I 産地競争力の強化を目的とする取組用

(広島県 令和2年度)

| 市町村名 | 事業実施主体名<br>(対象作物・畜種等名)① | メニュー①           | 類別  | 成果目標の具体的な内容①             | 事業実施後の状況①   |   |   |  |  |     |  |        |                            |     | メニュー②<br>(対象作物・畜種等名)②                          | 類別   | 成果目標の具体的な内容②   | 事業実施後の状況②  |   |   |     |   |        |                             |   |             |             | 成果目標の具体的な実績② | 事業内容<br>(工種、施設区分、構造、規格、能力等) | 事業費<br>(円)  | 負担区分(円)  |  |   |      | 完了年月日 | 事業実施主体の評価 | 都道府県の評価 | 備考 |
|------|-------------------------|-----------------|-----|--------------------------|---|---|---|--|--|-----|--|--------|----------------------------|-----|--|--|--|--|---|---|-----|---|--------|-----------------------------|---|-------------|-------------|--------------|-----------------------------|-------------|----------|--|---|------|-------|-----------|---------|----|
|      |                         |                 |     |                          | 計画時   | 1年後   | 2年後   | 3年後  | 4年後  | 5年後 | 目標値  | 達成率    | 計画時                        | 1年後 |  |  |  | 2年後  | 3年後   | 4年後   | 5年後 | 目標値   | 達成率    | 交付金                         | 都道府県費   | 市町村費        | その他         |              |                             |             |          |  |   |      |       |           |         |    |
|      |                         |                 |     |                          |   |   |   |  |  |     |  |        |                            |     |  |  |  |  |   |   |     |   |        |                             |   |             |             |              |                             |             |          |  |   |      |       |           |         |    |
| 世羅町  | 有限会社津口ファーム              | 畜産生産基盤育成強化(採卵鶏) | 182 | 採卵鶏飼養における飼料要求率が2.07%以上向上 | 2.080<br>(飼料量<br>9,160,011kg/生産量<br>4,403,945.4kg)<br>(平成27年) | 2.038<br>(飼料量<br>9,240,686kg/生産量<br>4,533,114kg)<br>(平成29年) | 2.042<br>(飼料量<br>9,310,068kg/生産量<br>4,558,874kg)<br>(平成30年) | 2.041<br>(飼料量<br>9,211,602kg/生産量<br>4,512,842kg)<br>(令和元年) | 2.012<br>(飼料量<br>9,222,928kg/生産量<br>4,583,713kg)<br>(令和2年) | -   | 2.037<br>(飼料量<br>9,259,920kg/生産量<br>4,545,027kg)<br>(令和3年) | 158.1% | 計画時(H27年)と比較して飼料要求率が3.3%向上 | 183 | 受益農家の家畜1頭(ブライロー・採卵鶏の場合100羽)当たりの生産コストを13.2%以上削減 | 867.5円<br>(746,390千円/延べ羽数<br>86,041,428羽×100)<br>(平成27年) | 858.5円<br>(747,937千円/延べ羽数<br>87,122,790羽×100)<br>(平成29年) | 796.8円<br>(702,193千円/延べ羽数<br>88,128,969羽×100)<br>(平成30年) | 745.4円<br>(655,959千円/延べ羽数<br>88,003,793羽×100)<br>(令和元年) | 733.1円<br>(648,095千円/延べ羽数<br>88,407,005羽×100)<br>(令和2年) | -   | 753.4円<br>(664,858千円/延べ羽数<br>88,243,669羽×100)<br>(令和3年) | 117.8% | 計画時(H27年)と比較して生産コストを15.5%削減 | 家畜飼養管理施設ウインドレス鶏舎金属造(4m超)2棟 2183.52㎡<br>電機設備一式<br>内部機械一式 | 295,920,000 | 124,074,000 | 0            | 0                           | 171,846,000 | H30.2.14 | 本事業を活用してウインドレス鶏舎を2棟整備し、鶏舎利用率を100%としたことから、延べ飼養羽数は増加し、規模拡大を行うことができた。あわせて、ウインドレス化によって、外的要因に左右されにくく、よりきめ細かい飼養管理が可能となったことから、飼料要求率が3.3%向上し、目標を達成できた。また、飼料要求率の向上や飼料費の削減により、年間経費を削減できた。これらのことから、100羽当たりの生産コストを15.5%削減し、目標を達成できた。 | 飼料要求率及び生産コスト共に目標を達成している。引き続き、目標年の達成に向けて支援を継続していく。 | 中間評価 |       |           |         |    |

|           |        |      |   |
|-----------|--------|------|---|
| 都道府県平均達成率 | 100.0% | 総合所見 | 現段階では、飼料要求率及び生産コスト共に目標を達成している。引き続き、目標年の達成に向けて、関係機関と連携して支援を継続していく。 |
|-----------|--------|------|---|

(注) 1 別紙様式1号の2のIに準じて作成すること。  
 2 要綱第3の4の(2)のAのただし書きの場合にあっては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。  
 3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。  
 4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。  
 5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。  
 6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。